

郷結

さとゆい

ふたつの郷さとを結ぶ

みちしるべ。

しもごうまち にしごうむら
下郷町 × 西郷村

にっこうこくりつこうえん
日光国立公園 甲子地域 インタープリテーション全体計画

目次 CONTENTS

● <small>さとゆい</small> 郷結について	3
● インタープリテーションについて	4
● <small>にっこうこくりつこうえん なすかしちいき</small> 日光国立公園 那須甲子地域	5
● <small>さんがく</small> 山岳エリア	
Theme.1 <small>ぶんすいれい</small> 分水嶺	7
Theme.2 <small>なすかしれんざん</small> 那須甲子連山	8
山岳エリア(おすすめしたい体験)	9
● <small>にしごうむら</small> 西郷村	
Theme.1 <small>けいしょう</small> 文化の継承	11
Theme.2 甲子の癒し	12
Theme.3 <small>げんりゅう</small> 源流の恵み	13
Theme.4 <small>かいたく</small> 開拓	14
Theme.5 都市と自然がつながる	15
● <small>しもごうまち</small> 下郷町	
Theme.1 街道と宿場	17
Theme.2 <small>いけい</small> 水の畏敬と恵み	18
Theme.3 雪国の知恵	19
Theme.4 食材と郷土料理	20
Theme.5 文化の継承と営み	21
● <small>さとじまん</small> 郷自慢(おすすめしたい体験)	22
● 用語集	26

さとゆい 郷結について

日光国立公園の北端、雄大な那須甲子連山の懐に抱かれる西郷村と下郷町。
峠を隔てながらも、同じ山並み、豊かな森の恵みを分かち合い、人々が自然とともに歴史を紡いできた、美しくも力強い二つの「郷」があります。

かつてこの地は、江戸と会津を結ぶ人の往来の道として栄えました。旧国道289号や鎌房林道を通じ、人々は険しい山道を越えて行き来し、物資や文化、そして人の想いをつなぎながら交流を育んできました。

しかし、大峠や険しい山並みは、時に人々の往来を阻み、二つの郷は長く分かたれる時代もありました。

そして平成20年(2008年)、甲子道路(甲子トンネル)の開通により、再び両地域は日常的につながる道を得ます。山を貫くこのトンネルは、単なる交通路ではなく、歴史的に行き来してきた人々の記憶を現代によみがえらせ、二つの郷を再び結び直す象徴となりました。

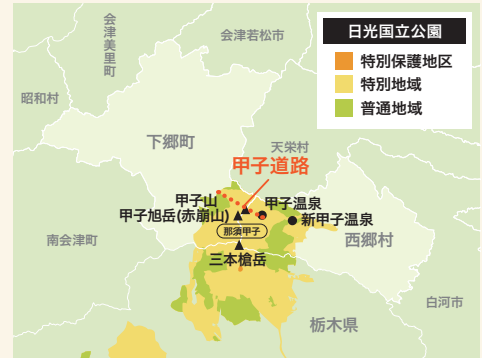
本冊子『郷結』は、こうした背景のもと、西郷村と下郷町をひとつの物語として伝える「日光国立公園 甲子エリア インタープリテーション全体計画」の一環として制作されています。

雄大な自然のもとに隣り合いながら、それぞれ独自の文化と暮らしを育んできた二つの郷。その魅力と歴史を改めて見つめ直し、地域を訪れる方々、そして次世代へとつなぐ「みちしるべ」となることを目指しています。

地域を愛し守り続けてきた人々の誇りが、訪れる人にとって一生の思い出となり、この地の自然、文化、人の想いが未来へと大切に受け継がれていくこと。そして『郷結』が、二つの郷をめぐり、知り、楽しむ旅の手引きとして、多くの方に手に取っていただけることを願っています。

この冊子が、地域を訪れる方には新しい発見への案内となり、地域に暮らす方々には自らの郷の魅力を再確認するきっかけとなれば幸いです。

どうぞ、この一冊を手に、二つの郷を結ぶ物語を覗いてみてください。



旧国道289号



甲子大橋

活用方法



教育現場で

ふるさとを学ぶ
「生きた教科書」に

地域の学校や学習の場で、子どもたちが自分たちの故郷の自然、歴史、文化、人々の暮らしを学ぶ際の教材として活用してください。実際にこの冊子を手に地域を歩き、見て、聞き、体験することで、教科書だけでは伝わらない「自分のふるさとへの誇り」を育むきっかけとなることを願っています。



旅行者の方へ

旅をより深く味わう
「発見のガイド」に

観光地を巡るだけでなく、その場所に息づく歴史や人の営みを知ることで、旅はより豊かなものになります。訪れた場所の背景を知り、地域の人との会話を楽しみながら、この土地ならではの魅力を見つける旅の手引きとしてご活用ください。



地域の方々へ

日常を見つめ直す
「郷の宝物」に

普段見慣れた風景や当たり前の暮らしの中にも、他にはない価値や物語があります。この冊子を通して、自分たちの住む地域の魅力を改めて発見し、家族や友人、訪れる人に語り、伝えるきっかけとしていただければ幸いです。

インタープリテーションについて

インタープリテーション(IP)とは

インタープリテーションとは、私たちの身近にある自然、文化、人々の営みといった地域資源に隠されたメッセージを、相手に伝わる言葉や体験へと“^{ほんやく}翻訳”して届ける教育的コミュニケーションの技術です。

単に知識を「説明」するだけではなく、その地らしいテーマや資源が持つ背景を、簡潔で分かりやすいストーリーや体験として共有します。この「翻訳」のプロセスを経て伝えるべきことを明確にすることで、受け手がただ情報を聞くだけでなく、自ら何かを感じ、考え、学び、そして次の行動へとつなげる大切なきっかけをつくります。

この手法はアメリカの国立公園局(NPS)を中心に発展しました。第一人者フリーマン・ティルデンは「ただの事実の提示はインタープリテーションではない。事実を介した啓示(気づき)である」と定義し、単なる情報提供を超えた、心に響く「語り」の体系を築きました。現在もイエローストーンやヨセミテなどの国立公園では、専門知識を持つ「インタープリター」が、来訪者と環境の架け橋となり、保全への意識を高める役割を担っています。

インタープリテーションの目的

この活動の目的は、単なる観光案内を超えて、地域とそこに集う人々に深い価値をもたらすことにあります。

まず、地域独自のメッセージを良質なレクリエーションや体験を通して共有することで、来訪者の満足度を高め、心に深く刻まれる「一生モノの体験」へと昇華させます。

同時に、地域住民が身近な資源の重要性を再発見し、自分たちの郷土を誇りに思う心を育むとともに、その価値を次世代へ語り継ぐ力を高めていくことも重要な狙いです。さらに、資源の価値を正しく伝えることは、環境への配慮や安全意識を促すことにもつながり、地域の宝を未来へ守りつなぐ持続可能な管理体制の強化を実現します。

来訪者の体験価値を向上させる

地域独自のメッセージを体験やレクリエーションを通じて共有することで、ただの観光を、心に深く刻まれる「一生モノの体験」へと高めます。

地域住民の誇りと理解を深める

身近な資源の重要性を再発見し、自分たちの地域を誇りに思う心を育むとともに、次世代へ語り継ぐ力を高めます。

資源の保全と安全のマネジメントの強化

資源の価値を正しく伝えることで、環境への配慮や安全意識を促し、地域の宝を未来へ守りつなぐ持続可能な管理体制をつくります。

インタープリテーション全体計画とは

インタープリテーション全体計画とは、こうした目的を達成するために、地域の資源・体験・メッセージを一体的に整理し、「伝える仕組み」としての全体的な取り組みを明確にする指針です。教育・観光・保全という異なる分野を一本のストーリーでつなぐことで、地域が一丸となって「何を・誰に・どのように伝えるか」という方向性を共有できるようになります。

日本各地で広がる「未来への物語」づくり

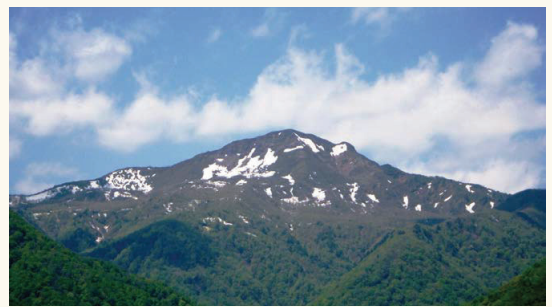
現在、日本国内においても、こうしたインタープリテーション全体計画の策定は全国各地で加速しています。

たとえば那須エリアでは、地域の魅力や価値を効果的に届けるための包括的な戦略が策定されています。また「明治日本の産業革命遺産」においては、歴史的背景やそこに刻まれた人間ドラマを伝えるための「教本」を作成することで、ガイドの質を向上させ、来訪者の心に深く刺さる解説の仕組みを整えています。さらに現在では、日本全国のさまざまな場所で、それぞれの土地が持つ固有の文化や自然環境に合わせた独自の全体計画づくりが進められています。

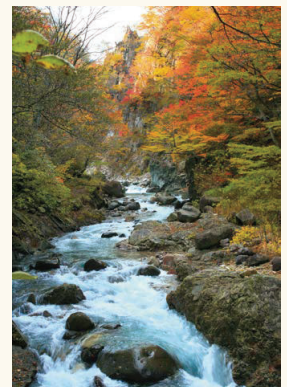
このように、地域の特色を活かした「伝える仕組み」の構築は、今や日本各地で地域の価値を高めるための欠かせない取り組みとなっています。本計画もまた、こうした国内の先進的な事例と歩調を合わせ、事務局やインタープリター、そして地域に暮らす皆さまが連携して、この地の魅力を形にするための「共通の道具」として活用されることを目指しています。

にっこうこくりつこうえん なすかしちいき 日光国立公園 那須甲子地域

日本の国立公園は、手つかずの原生的な自然のみならず、その土地で育まれてきた農地や集落、歴史文化をも包含している点に大きな特長があります。昭和9年(1934年)、我が国最初の国立公園の一つとして誕生した日光国立公園(那須甲子地域は1950年に編入)は、まさにその象徴といえる存在です。福島・栃木・群馬の3県にまたがる広大な区域には、火山活動が生み出した峻険な山岳、美しい湖沼、そして世界文化遺産に代表される歴史的建造物が、自然と見事に調和しながら今も息づいています。その北部に位置する那須甲子連山は、那須地域から続く山並みの延長に広がり、その麓には福島県西郷村と下郷町が広がっています。両地域は豊かな自然に抱かれながら、古くから人々の往来と暮らしが育まれてきた場所です。この地域へのアクセスは、栃木県側的那須方面から南側へ入るルートをはじめ、東側からは東北自動車道白河インターチェンジや東北新幹線新白河駅を起点とする玄関口があります。また、西側からは会津若松や南会津方面からのアクセスも可能で、古くは会津中街道を通じて会津と関東を結ぶ交通の要衝としても機能してきました。こうした地理的条件のもと、那須と会津、関東と奥羽をつなぐ結節点として、この地域は歴史的にも文化的にも多様な交流の舞台となってきたのです。



甲子旭岳
かしあさひだけ



阿武隈川
あぶくまがわ

特長

那須甲子地域は、今なお噴気を上げる茶臼岳(那須岳)をはじめとする火山群のダイナミズムと、それらが河川に侵食されて生まれた幾筋もの深い渓谷が織りなす、荒々しくも美しい景観が魅力です。

この地は、太平洋側と日本海側の境となる分水嶺を有した「東西の交差点」であり、関東平野最北端として東北と関東を分かつ甲子連山が示す「南北の交差点」でもあります。山麓から山頂にかけて劇的に変化する植生や、高山植物の楽園ともいえる稜線部など、極めて高い生物多様性を誇るとともに、この地域特有の文化や歴史が交錯する変化点としても重要な役割を果たしています。また、源泉を御神体とする白湯山・高湯山信仰が営まれたエリアとして信仰の歴史が今も精神的風景として息づいています。首都圏からのアクセスも良く、本格的な自然と深い歴史文化を同時に体感できる、日光国立公園を代表するフィールドの一つです。

多様な野生動植物

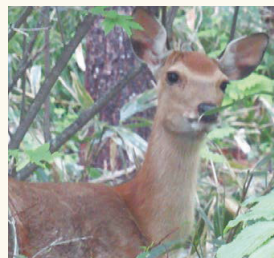
ツキノワグマやニホンカモシカ、ニホンジカといった大型哺乳類から、渓谷に生きる魚類・両生類まで、本州を代表する多様な命が育まれています。



キビタキ



ニホンザル



ニホンジカ



白湯山大鳥居
はくゆさん

山岳と白湯山・高湯山信仰

古くから山岳信仰を崇められてきた歴史。三斗小屋温泉周辺をはじめ、山岳を霊場として敬う日本独自の精神文化が史跡として受け継がれています。



山岳エリア



水が分かれ、山が育む、
人の歴史と文化が行き交う物語。

ぶんすいれい
分水嶺とブナの森が育んだ、この地ならではの営みがここにある。

西郷と下郷を隔てるなすかしれんざん那須甲子連山。

雨はぶんすいれい分水嶺を境に海へと流れ、峠道は人と文化を運んできた。

水と道が重なり合い、この地独自の歴史と暮らしが今も息づいている。



ぶんすいれい 1.分水嶺

— 運命を分かつ水の旅路と、那須甲子連山の鼓動

Story

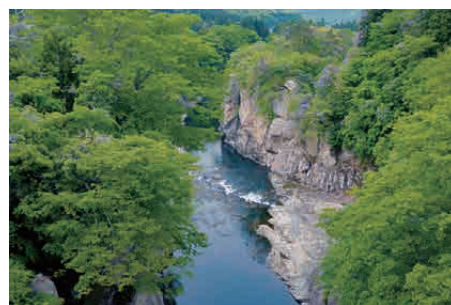
ストーリー

西郷と下郷を隔てる那須甲子連山。その稜線は、降った雨が太平洋か日本海かを分かちつ大きな「分水嶺」である。甲子山の山頂に立てば、東側は「阿武隈川」の源流となつて太平洋へ、西側は「大川(阿賀川)」となつて日本海へ旅立つ。

この分水嶺は、単なる境界線ではない。かつて人々はこの険しい山々を神仏が宿る霊場、あるいは「あの世(黄泉の国)」との境目と畏怖し、その信仰が数々の伝承を生んだ。また、西郷の不毛の地を潤した疎水や下郷の生活を支える水路も、すべてはこの分水嶺から始まる水の物語である。那須甲子連山の火山群が生んだ地形が水を分け、ある時は恵みとなり、ある時は開拓の執念を生む。分水嶺は、この地に生きる人々の情熱と、自然の営みが交差する原点だ。



西郷村の源流の滝(雌滝)
にしごうむら めだき



下郷町の太川
しもごうまち おおかわ

Message

メッセージ

一滴の行方が、風土を形創る

私たちは、山の頂で分かれる「水」とともに、それぞれの郷土の誇りを育んできた。太平洋へと注ぐ水の力強さは西郷の開拓精神を、日本海へと注ぐ水の清らかさは下郷の伝統文化を支えている。分水嶺という運命の分かれ道を知ることは、この地に流れる生命の脈動に触れること。二つの海へと繋がる物語が、ここから始まる。

Resource

関連する資源

- 阿武隈川と太川の分流点



出典：
地理院地図(電子WEB)を加工して作成 西郷村
地理院タイル[<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>]

本州を東西に分ける主要な分流点。三本槍岳や甲子山に降り注いだ雨は、東側(西郷)では阿武隈川として太平洋へ、西側(下郷)では太川を経て日本海へ注ぐ。一歩ごとに流れる先が変わる「地球のダイナミズム」を体感できる。

- 「開拓の命水」と「生活の清流」



東側の西郷村では、阿武隈川の源流水が不毛の原野を潤す「疎水」となり、明治以降の開拓を支え、現在の広大な高原景観や白河ラーメン・追原そばといった食文化の礎を築いた。一方、西側の下郷町では、太川へと合流する溪流の数々が清らかな水の巡りを生み、「日本の音風景100選」に選ばれた大内宿の生活用水や、名物「ねぎそば」を支える蕎麦栽培の源となっている。今もその水が、この地らしい丁寧で美しい暮らしの風景を紡いでいる。

なすかしれんざん 2.那須甲子連山

— 二つの表情を抱く母なる山と、
三藩が交わした誇りの記憶

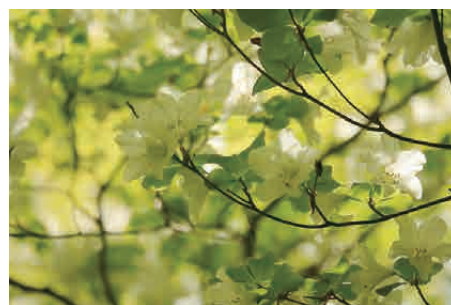
Story

ストーリー

西郷と下郷を隔てる那須甲子連山は、見る方角によってその表情を劇的に変える。西郷村から仰ぎ見る姿は、朝日を浴びて雄大に裾野を広げる「陽」の景色であり、開拓者たちの希望を象徴してきた。対して下郷町から望む姿は、峻険な岩肌と深い渓谷が織りなす神秘的で厳しい「静」の景色だ。この連山の記憶を象徴するのが、最高峰・三本槍岳である。かつて会津・白河・黒羽の三藩が領地を確認するために山頂に槍を立てたエピソードは、この山が「境界」であり、同時に「交流の接点」であったことを物語る。山頂を包み込むのは、国内屈指の規模を誇るブナの原生林。春にはシロヤシオが山を白く染め上げ、秋には黄金色の紅葉が広がる。峻険な嶺に隔てられながらも、人々は同じ山を仰ぎ、その懐に抱かれながら、深い絆を育んできたのである。



那須甲子連山の山々
なすかしれんざん



シロヤシオ

Message

メッセージ

仰ぎ見る嶺が、郷土の誇りを結ぶ

私たちは、この雄大な連山を「地域の象徴」として敬い、守り続けている。西郷の開拓を見守ってきた雄姿も、下郷の伝統を育んできた峻険な美しさも、すべてはこの山が与えてくれた宝物だ。藩境を越えて槍を立て、互いを認め合った先人たちのように、この嶺を介して生まれる新たな出会いこそが、二つの郷の未来を切り拓く力となる。

Resource

関連する資源

● 三本槍岳
さんぼんやりだけ



那須連山の最北端に位置する最高峰（1,917m）。江戸時代、山頂に会津藩・白河藩・黒羽藩の三藩がそれぞれ槍を立てて領地を定めたという伝説がその名の由来である。かつては厳しい「藩境」であった場所だが、現在は二つの郷を繋ぐ「交流の頂」として、多くの登山者が手を取り合う平和の象徴となっている。

● ブナの原生林
げんせいりん



写真：ツーリズムガイドにしごう 山崎茂氏

山腹から山麓にかけて広がる、国内屈指のブナやミズナラの原生林。多種多様な生命を育むこの森は、豊かな水を蓄えて麓の暮らしを支える「緑のダム」として重要な役割を果たしている。また、標高とともに劇的な変化を見せる森林のグラデーション（垂直分布）も大きな魅力だ。広葉樹の森から、高みに向かうにつれてモミヤクロベなどの針葉樹林へと移り変わる、見事な景観を歩きながら体感することができる。

● 高山植生と湿原植物
こうざんしょくせい しつげんしょくぶつ



アズマシャクナゲ

那須連山の稜線部や山間の湿原は、標高2,000m以下という高度ながら、冷涼な気候と火山性土壌という特殊な条件により、稜線にはハイマツなどの本格的な高山植生が広がっている。また、山間にひっそりと佇む「観音沼」などでは、希少な湿地植物が群生している。火山由来の荒涼とした地形と、静寂に包まれた神秘的な湿原生態系が共存する姿は、このエリアの多様性を象徴する景観資源となっています。

● 一步で水の行き先が変わる山、分水嶺・甲子山の山頂に立つ

にしごむら しもごまち かしやま
西郷村と下郷町の境にそびえる甲子山は、太平洋と日本海へ流れる水を分ける分水嶺の要にあたる山である。山頂では、わずかな位置の違いによって水の行き先が変わるとい、大地の壮大な仕組みを実感することができる。

あぶくまがわ おおかわ
足元から流れ出た雨が、片方は阿武隈川を経て太平洋へ、もう片方は大川(阿賀川)を下り日本海へと向かう。山頂に立つことで、二つの海へつながる水の旅路と、この地域を育ててきた自然の循環を感じることができる。

静かな山の上で風を受けながら、自分もまた自然の流れの中にいることを感じる時間が、心に深く残る体験となる。



甲子山山頂
かしやま

山岳エリア Theme.1『分水嶺』

福島県
観光物産交流協会



※QRコードで紹介している記事は、2018年に掲載です。
登山の際は、最新情報をご確認ください

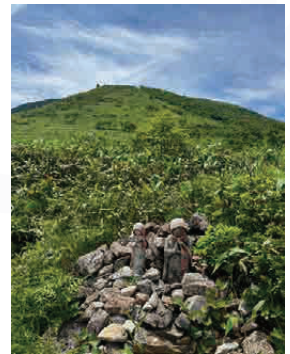
● 歴史の道、大峠を歩き、山の時間を感じる



大峠から見える那須連山
おおとうげ



大峠山頂
おおとうげ



かつて会津と関東を結んだ会津中街道の一部である大峠の道は、現在も登山道として歩くことができる。道のりの中には、戊辰戦争の歴史や、白湯山信仰・高湯山信仰など、山とともに受け継がれてきた文化が刻まれている。深い森に包まれた道を進むうち、かつてこの峠を越えた旅人や人々の営みに思いが重なり、自然と歴史が静かに交わる時間を感じることができる。山を歩きながら、遠い昔から続く人の往来と自然の営みに触れるひとときが、日常を離れた特別な時間を生み出してくれる。

山岳エリア Theme.2『那須甲子連山』



しもごまち
下郷町
日暮の滝

● 那須甲子連山をつなぐ縦走体験

ちやうすだけ さんぼんやりだけ かしやま なすかしれんざん
茶臼岳から三本槍岳、そして甲子山へと続く那須甲子連山の縦走路では、山ごとに変化する景色や植生、連なる峰々のつながりを体感することができる。

さんぼんやりだけ かしやま ぶんすいれい
三本槍岳では三藩の歴史に思いを巡らせ、甲子山では分水嶺の物語を感じながら歩く稜線の時間は、この山域ならではの魅力である。

山を下りた後、甲子温泉や新甲子温泉で汗を流せば、山旅の余韻がゆっくりと心に残る。山を歩き、湯に浸かり、自然と向き合う時間が、心と体を静かに解きほぐしてくれる。



さんぼんやりだけ
三本槍岳登山



元湯甲子温泉大黒屋



にしごむら
西郷村観光協会
左：温泉情報、右：登山情報

おすすめしたい体験



高原に生きた人々と、
水と開拓がつないだ共生の物語。

自然と歩み、未来を拓く“日本のふるさと”がここにある。

あぶくまがわ
阿武隈川の源流を抱く高原の村・西郷。

厳しい自然に挑み、助け合いながら暮らしを築いた開拓の精神。

その知恵と絆が、今も人と自然をつなぎ続けている。



1.文化の継承

— 悠久の時を重ねる共生の精神

Story

ストーリー

西郷の文化は縄文から続く時の積み重ねにある。村内142の遺跡や軍馬補充部の歴史は、今も歴史民俗資料館に語り継がれている。隣接する那須との縁も深く、三本槍岳を望むこの地は皇族が静養に訪れる地でもあった。敷地内に残る「昭和天皇お手植えの松」は、その気品ある交流の象徴だ。延久2年(1071年)、小田新田村(下新田)を開いたと伝えられる安房之助が、霊夢のお告げにより北流する川の淵から如意輪観音像を得て堂宇を建立したのが子安観世音堂の始まりとされる。以来、地域の信仰を集める堂として守り継がれている。信仰や祭礼、水芭蕉を守る営みは、和合と共生の精神として未来へ受け継がれていく。



軍馬補充部放牧場の様子
ぐんばほじゅうぶ

Message

メッセージ

文化を守り、育て、次代へ手渡していく

西郷の文化は、縄文の遺跡から信仰、祭礼、自然保護に至るまで、長い時の積み重ねによって形づくられてきた。しかし、戊辰戦争で多くの文献が焼失し、その歴史のすべてを知ることはできない。それでも今に守り伝えられた文化財や信仰、暮らしの知恵を見つめ直すことで、この村が歩んできた道と、未来へつなぐべき心を再び照らし出すことができる。



縄文時代の遺跡



子安観世音堂
こやすかんぜおんどう

Resource

関連する資源

● 上羽太天道念仏踊
かみはぶとてんとうねんぶつおどり



江戸時代から続く県指定の重要無形民俗文化財。田植え終了後に五穀豊穰を祈願し、地区の交歓と和合を兼ねて行われる祭礼。太鼓と歌い手、踊り手が一体となり、豪快な躍動感で共同体精神を伝える伝統行事。

● 軍馬補充部と原中神社
ぐんばほじゅうぶ



明治から昭和初期にかけて村の経済全体に大きな影響を与えた軍馬補充部の歴史的遺産。原中神社には、軍馬の精魂を弔う「キンヌキ観音」やその神使いとして狛犬のように馬が祀られ、土地の歴史とすべての命への深い敬意を今に伝える。

● 皇室「お手植えの松」



歴史民俗資料館(旧軍馬補充部事務所)の庭前には、大正5年(1916年)、昭和天皇が皇太子時代に行啓された際に自ら植えられた「アカマツ」が、今もなお村の歩みを見守るように枝を広げている。この松は、那須御用邸を拠点に三本槍岳などの豊かな自然を慈しまれてきた皇室と西郷村との、長きにわたる親密なつながりを象徴する生きた遺産である。

2. 甲子の癒し

— 自然と文化が息づく心の居場所

Story

ストーリー

甲子の地は、江戸時代に白河藩主・松平定信公^{まつだいらさだのぶ}が愛した“心の避暑地”であった。山々の静けさ、そして州安和尚^{すあんおしょう}による温泉発見伝説が伝わるこの地には、古くから人々が訪れ心身を癒した。彼らが残した詩句や伝説は、すべて自然への深い敬意と学びの表現である。現在の甲子温泉・新甲子温泉を中心に、かつて鉱石を産んだ山々やブナ林が広がるこの地は、「癒やし」と「文化」が交わる地として、今も訪れる人々の心を静かに迎えている。



元湯甲子温泉大黒屋

Message

メッセージ

自然と文化が出会う場所で、人の心は還る

松平定信公^{まつだいらさだのぶ}や文人、修行僧が心を選じた甲子の景観を、今、あなたも見つめてほしい。甲子温泉やブナ林に触れることで、古の人々が感じた心の静けさや敬意を取り戻す。自然が育んだこの聖地で、現代の喧騒から離れ、還ってきた感性こそが、私たちが真の豊かさへと導く。



出典：白河市歴史民俗資料館所蔵

松平定信公
まつだいらさだのぶ

Resource

関連する資源

● 松平定信ゆかりの地
勝花亭^{しょうかてい}



甲子を愛した定信公の別荘（大黒屋旅館離れ）。定信公は自身の紀行文『関の秋風』で甲子の絶景を紹介している。定信公の御用絵師でもあった谷文晁^{たにぶんせう}が描いた武神像「甲子山大黒天^{かしやま}」の石碑とともに、定信公がこの地に込めた「修養」の精神を今に伝える。

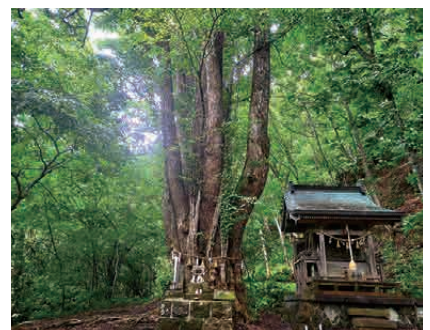
● 甲子・新甲子温泉



五峰荘

州安和尚^{すあんおしょう}による温泉発見伝説が残る、古来からの湯治の地。定信公も愛した歴史ある名湯で、その源泉を引く新甲子温泉は標高800mの高原に位置している。どちらもブナの原生林や渓谷に囲まれ、「癒やし」と「湯治」の地として古来より知られている。周辺では遊歩道散策、溪流釣り、紅葉狩りなどが楽しめ、四季折々の美しい自然と良質な湯で心身を癒やす。

● 剣桂^{けんかつら}



剣桂は、定信公が剣で鬼神を封じ込めたという伝説が伝わる、推定樹齢約370年の巨大な桂の木。この剣桂は「森の巨人たち百選」にも選ばれた神の依り代であり、古くから地域の人々によって靈験あらたかな木として信仰を集めてきた。

3.源流の恵み

一 水が育む豊かな食と体験

Story

ストーリー

にしごむらは、太平洋と日本海を分ける分水嶺にある「水の生まれる村」だ。阿武隈川源流の清らかな流れは、雪割渓谷や西郷瀨といった景観美をなし、現在はダム群を通じて人々の暮らしを支えている。だが、その歴史は「水のない不毛の地」との戦いでもあった。川が深い谷を流れるため、水が目の前にありながら大地を潤せない苦しい時代が続いた。先人たちはその窮状を救うべく、文久・明治の時代に執念で疎水を切り拓き、広大な原野に命の水を届けた。この開拓の汗と源流の恵みは、今、豊かな食文化や多彩な体験を生み、人と自然が織りなす力強い循環を体感させてくれる。



阿武隈川の清流
あぶくまがわ

Message

メッセージ

水の循環を味わう

この地の食や体験を通して、西郷村の水の循環と人々の営みを五感で感じ、源流の恵みを知り、水を守る責任を胸に刻む。



水芭蕉自生地

Resource

関連する資源

- 阿武隈川源流と水の絶景



かつてこの地は深い谷が広がり、水を引くことも難しい土地であったが、先人たちは幕末の「文久堀」から明治期の「明治堀」へと、執念ともいえる努力で疎

水を切り拓き、大地に命を吹き込んだ。その後整備された赤坂ダム、黒森ダム、西郷ダム、堀川ダムなどのダム群は、水の恵みを守り活かしてきた地域の歩みを今に伝えている。阿武隈川の清流やダム湖では、SUPなどのウォーターアクティビティも人気！

さらに、西の郷遊歩道にはさまざまな滝が点在し、四季折々の自然の中で、水が織りなす景観を間近に感じることができる。



- 阿武隈川メイプルサーモンと清流の恵み



清流の恵みを最大限に活かしたブランド魚メイプルサーモン。マス釣り(林養魚場ますつり公園など)を通じて、源流の水質の良さが生み出す繊細な味わいを、その場

で直接体験し、味わうことができる。

- 高原の食文化



大豆製品



馬鈴薯



小麦「なつこ」



地酒「甲子山」

冷涼な気候と豊かな水で育つ高原野菜・馬鈴薯やそば、戦後開拓から守り受け継がれてきたにしごう在来品種の大豆「にしごう」による大豆製品、地元品種の夏黄金の小麦なつこやルバープ、地酒といった特産品などは、食を通して村の文化と伝統を伝えている。(まるごと西郷館で購入可能)

4.開拓

一 困難を切り開いた“挑戦と学び”の歴史

Story

ストーリー

江戸時代末期・明治時代以後の西郷村の開拓は、戦後の軍馬放牧場跡への入植で大きな転換期を迎えた。川谷地区では、先駆者・加藤完治氏の導きのもと、復員兵や引揚者が過酷な原野に挑んだ。「丈夫で、仲良く、迷わずに」、そして「受持分担、一心同体」。個々が役割を全うし、組織として固く結ばれる精神こそが開拓の礎となった。冷涼な土地を支えたじゃがいも栽培や、強風から家を守るカラマツの防風林、阿武隈川を越える雪割橋。これらは、土を耕す者だけでなく、鋤や鉄を打つ職人、支えるすべての人々の絆によって築かれた「共に生きる力」の結晶である。



由井ヶ原開拓
ゆいげはらかいたく※

Message

メッセージ

不屈の開拓魂が、未来を開く

「丈夫で、仲良く、迷わずに」。この言葉とともに、先人たちは何もない野に希望を耕した。「受持分担、一心同体」の教えは、目に見える収穫だけでなく、道具を作る人、知恵を出す人、すべてが繋がって初めて未来が拓けることを教えてくれる。この不屈の開拓魂は、今も西郷村の豊かな大地と暮らしを支える根底に流れている。

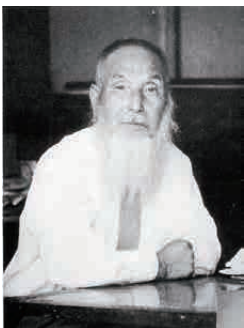


戦後開拓発祥之地碑

Resource

関連する資源

● 加藤完治氏と開拓の理念



川谷開拓の指導にあたった「開拓の父」。「丈夫で、仲良く、迷わずに」に加え、「受持分担、一心同体」などの理念を重んじた。これは、各自が責任を果たしつつ、全体が一つとなって助け合う共生の精神として今も受け継がれている。

● 高原じゃがいも・にしごう体験隊



じゃがいも畑



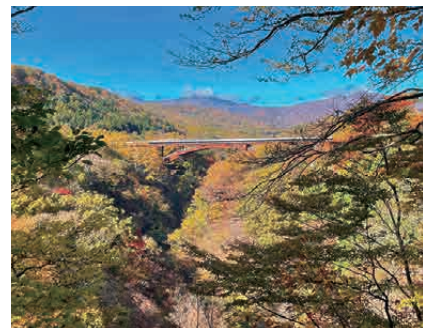
にしごう体験隊



ポテトまんじゅう

開拓地「報徳」を中心に、痩せた土地でも育つじゃがいもは命を繋ぐ基幹作物となった。それを加工したポテトまんじゅうは、開拓時代の工夫と仲間を伝える温かい味。現在は生乳生産量県内1位を誇る酪農と並び、村を支える食文化となっている。にしごう体験隊では、甲子高原の遊歩道散策や歴史探訪に加え、ジャガイモや高原野菜の収穫といった農業体験からバター作りなどの酪農体験まで幅広く楽しむことができる

● ゆきわりばし雪割橋



阿武隈川源流の深い渓谷に架かり、冬の雪景色を割るように流れる川から名付けられた。度重なる架け替えを経て、開拓時代には交通路として地域の発展を物理的・精神的に支えた。現在は、開拓の困難を乗り越えた希望のシンボルとして、特に紅葉時期の渓谷美が訪れる人々を魅了する名所となっている。

出典：にしごう探検隊 会長 上田 秀人氏

5.都市と自然がつながる

— 開拓の心でひらく
“共創の村”
きょうそう

Story

ストーリー

東北の玄関口・新白河駅から数分で高原の自然が広がる^{にしごむら}西郷村は、都市の利便性と豊かな大地を兼ね備えた特別な場所だ。かつて“未開の地”を仲間と切り拓いた挑戦の気質は、いま地方移住者やリモートワーカーを受け入れる開かれた空気として息づいている。支援制度や体験施設も整い、都市と村が互いに新しい視点を交換する「交わり」が生まれている。伝統と革新、自然と都市の価値観を重ねながら、西郷は「開拓」から「共創」へと進化し、次の時代をひらく力となっている。



新白河駅

Message

メッセージ

時代が変わっても、地域の根は大切に守り、 枝葉はしなやかに広げる

開拓の心を受け継ぎながら、外からの風を恐れず受け入れることで、新たな力が芽生える。伝統と革新、自然と都市、地元と移住者一異なる価値を“競う”のではなく“重ねる”とき、地域は再び息づく。共に創り、学び、歩む姿勢こそ、西郷が未来を拓く原動力となる。



西郷村の町並
にしごむら

Resource

関連する資源

● 多様なアクセス方法



東京から新幹線で約80分。都市圏から最も近い“高原の玄関口”としての立地が、この地域の大きな強みである。東北新幹線が停車する新白河駅と、東北自動車道白河インターチェンジを擁し、新幹線と高速道路の双方を利用できる優れた交通アクセスを備えている点も特筆される。さらに、西郷村は唯一の「新幹線のとまる村」であり、都市と自然が近接する独自の環境を形成している。

● 国立那須甲子青少年 自然の家



国内で2番目に設立された歴史ある施設。年間数万人の子どもたちが訪れ、あぶくま源流体験や軍馬補充部時代の土塁を巡るトレッキング、スノーシューハイクに挑戦する。「子どもを自然に解き放つ」場所として、首都圏からも一年中人々が訪れる重要な拠点だ。

● 大堀相馬焼 松永窯



震災を機にこの地へ移り、新たな歩みを始めた大堀相馬焼の松永窯は、現在、西郷の風土の中で西郷焼の制作に取り組み、地域に根付き始めている。窯元ではゲストハウスとワーキングスペースを併設し、ろくろ体験などの陶芸体験も行っている。ものづくりと交流を通して地域との関わりを育み、移住・定住につながる拠点となっている。



四季と共に生きた人々と、 街道がつないだ文化の物語。

旅人を迎え、文化を伝え、未来へとつなぐ“日本の原風景”がここにある。
山々を越えて人が行き交い、自然への敬意と共に暮らしが育まれた下郷のまち。
街道に息づく宿場文化、自然と共に生きる知恵や食文化、文化継承への挑戦。
そのすべてが、時を超えて今も息づいている。

1.街道と宿場

— 人と文化が行き交う宿場の記憶

Story

ストーリー

しもごうまち
下郷町は、江戸時代には会津と関東を結ぶ下野街道(会津西街道)や会津中街道の宿場町として栄えた。なかでも大内宿は、江戸時代に整備された町並みをそのままに今も変わらず旅人と住民の交流が育まれる「縁」の場だ。茅葺屋根の景観を支えるのは、住民同士の助け合い「結の精神」だ。屋根の葺き替えに象徴されるこの絆は、今も文化継承の柱として根付く。旅人を迎える街道とその文化は、今でも訪れる人を奥会津の豊かな時間へとつなぎ続けている。



大内宿

Message

メッセージ

心の交流が、未来をつなぐ

私たちは、古い茅葺きの町並みや宿場町の文化という「先人から託された価値」を、地域の宝として守り続けている。「結の精神」によって守られたこの景観を舞台に、民宿体験などの新たな交流を加える挑戦こそが、過去と未来、そして人と人との真の出会いを取り戻す鍵となる。



茅葺きの葺き替えと「結」の精神

Resource

関連する資源

- 下野街道(会津西街道)と会津中街道



しもつけかいどう
下野街道は、江戸時代に会津若松と下野今市を結んだ全長約130kmの主要街道であり、会津西街道とも呼ばれる。会津藩の参勤交代や年貢米輸送の最短路として整備され、大内宿などの宿場町が栄えた。しかし、天和3年(1683年)の日光大地震による山崩れで下野街道が水没し通行不能となると、その代替路として、現在の日光国立公園甲子エリアを通る会津中街道が整備された。現在も下郷町域には、下野街道当時の面影を残す約10kmの古道が残り、自然豊かな山間部を越えて地域の歴史と物流を支えた重要な道として、保護・継承されている。

- 大内宿とねぎそば



ぼしんせんぞう
戊辰戦争の戦果を免れ、江戸時代の宿場町の姿をそのまま残す、国選定の重要伝統的建造物群保存地区。参勤交代などで賑わった街道文化の面影を、茅葺き屋根の町並みを通して五感で体感できる、下郷町の中核となる歴史遺産だ。大内宿のそばの食べ方は一風変わっており、箸の代わりに一本の長ネギを使って食べるのが特徴だ。旅人に驚きと楽しさを提供する地域独自の食体験として広く知られている。

- 古民家宿泊体験



大内宿の一部古民家は、今でも宿泊することができる民宿を営んでいる。移動手段が発達していなかった時代、旅人にとって宿でのひとは、大変な旅の癒しであったに違いない。普段は見ることがない夜の街道へ繰り出したり、満天の星空鑑賞ができるのも田舎ならではの体験だ。

2.水の畏敬と恵み

— 水によって彩られた四季折々の風景

Story

ストーリー

甲子エリアには川の流れを分かつ分水嶺^{ぶんすいれい}があり、その恵みの水は人々の生活を潤す一方、時に激しい猛威ともなった。しかし、その水の力が雄大で比類なき景観を生んだ。下郷町^{しもごうまち}をほぼ南北に縦断するように流れる一級河川・大川(阿賀川^{あががわ})ラインには100万年という時を超えて水が岩を削り出した塔^{とう}のへつりや、雄大な渓谷美、湧き出る温泉、豊富な水量を活用した多目的ダムなどがあり、これらはまさに水という自然が持つ力と恩恵の証である。清流は今もなお、溪流釣りやカヌー、100万年ウォークなどのアクティビティや体験を育み、人々は自然のリズムに合わせた暮らしを息づかせている。



分水嶺が分かつ大川
ぶんすいれい おおかわ



高倉山のわき水(長寿の水)
たかくらやま

Message

メッセージ

畏敬の先に、心の豊かさと悠久の時を見つめる

下郷町^{しもごうまち}では、水や雪がもたらす猛威をも含めて、自然を受け入れる心の強さが受け継がれている。人々は厳しい環境の中で、信仰や祭りに自然への畏敬を込めながら、その中にこそある四季折々の美しさを見つめてきた。

この地の渓谷美や地形は、自然の優しさだけではない、100万年という悠久の力の証である。水が岩を削り出した塔^{とう}のへつりは、時の流れと自然の生命力が創り出した偉大な芸術だ。

Resource

関連する資源

● 滝・溪流と体験



ひぐらしの滝
日暮の滝

分水嶺^{ぶんすいれい}から分かれた大川や溪流、観音沼森林公園内の日暮の滝などが織りなす美しい水辺の景観。カヌーや溪流釣り、森林浴、野鳥観察など、多様な自然体験を提供する生命の源である。

● 湯野上温泉

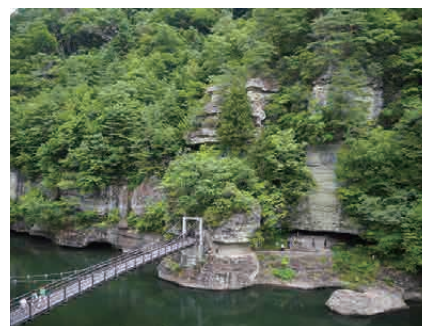


湯野上温泉駅

豊富な湯量を誇る源泉かけ流しの温泉地である。かつては川沿いの岩間から自然に温泉が湧き出し、人々はその恵みを利用してきたが、ダム建設により当時の源泉は水没した。現在も川の中には温泉が湧き出す場所が残り、現在の湯野上温泉は新たに掘削した源泉を利用して供給されている。

また、会津線湯野上温泉駅の茅葺き屋根の駅舎は、歴史的景観と温泉地の魅力を象徴する景観資源であり、旅の玄関口として訪れる人々を迎えている。

● 塔^{とう}のへつり



100万年もの時間をかけて、水流が岩壁を削り出した天然の奇岩群。「へつり」とは会津の方言で「川に迫った断崖^{だんがい}」を意味する。かつて海だった時代の地層が露わになっており、地質学的にも貴重な学びの資源である。

3.雪国の知恵

— 雪と共生する工夫と豊かさ

Story

ストーリー

しもごうまち
下郷町の雪深い冬は、暮らしに知恵と温もりを育んできた。かつての大内宿では、狭い家屋間に積もった雪をあえて踏み固め、玄関へ繋ぐ階段にするなど、自然と上手に向き合いながら暮らしていた。

また、冬の雪で食料を保存し、夏は冷気が吹く中山風穴を天然の冷蔵庫とするなど、四季を通じて自然の力を循環させた。雪に耐える茅葺き屋根を住民総出で守り、囲炉裏で「しんごろう」を囲む。生活のすべてが自然と共生する工夫とぬくもりに満ちている。



雪で覆われた街々



囲炉裏のある風景

Message

メッセージ

自然の厳しさを、知恵と力に変えて共に生きる

雪深い自然の厳しさは、人々の暮らしを脅かすものではなく、知恵と工夫を生み出す源だった。自然の力を受け入れ活かす暮らし、その根底には、一人では生き抜けないからこそ生まれた、助け合いと協働の文化がある。厳しさを分かち合い、知恵を重ねて生きる姿勢が、雪国ならではの豊かさを今に伝えている。

Resource

関連する資源

● 保存食文化と囲炉裏



にしんの山椒漬

山菜やキノコの塩漬、乾燥、栃餅など、自然の恵みを無駄なく使い切り、長期間保存するための知恵。囲炉裏は暖房だけでなく、調理・乾燥の中心であり、季節と調和した雪国ならではの食の工夫を伝える。「しんごろうと雪道は後ほどいい」これは地域独特の言い回しだ。しんごろうは焼くほど美味しく、雪道も踏み固められた後の方が歩きやすいという意味が込められている。

● 自然の冷蔵庫(中山風穴)と雪下キャベツ



なかやまふうけつ
中山風穴は国の天然記念物で夏場でも冷たい風が吹き出す「天然の冷蔵庫」。周囲は真夏でも驚くほど冷涼な空気に包まれる。かつては、この安定した冷気を利用して種子や食料の保管が行われた。そのほか雪下キャベツとって、厳しい冬を乗り越えるための保存の知恵として畑でキャベツに藁を被せ、雪の中で保管した。甘みを凝縮させる効果もあった。キャベツのほか、大根やネギは雪の下に埋めて保存した。

● かんじき体験



水面屋



雪深くても安全に移動するための生活技術。雪をあえて踏み固めて道を作る習慣など、冬季の移動を支える雪国ならではの知恵である。かんじき体験を通じて、雪と共生する先人の知恵を学ぶことができる。

4.食材と郷土料理

— 食が伝える伝統と人のあたたかさ

Story

ストーリー

しもごうまち
下郷町の食卓には、標高が高く昼夜の寒暖差が激しい大地と清流の恵みが満ちている。この気候は、米や野菜、果物、そして蕎麦に格別の甘みをもたらす。中でも猿楽台地に広がる広大な蕎麦畑は圧巻だ。

祝いの席を飾る鯉の旨煮、湯野上温泉で提供されるニジマスのムニエルなど、郷土料理と豊かな食材の存在感が光る。

食文化は交流の場でもあり、臼を使った餅つき体験なども好評だ。



しんごろう



マス料理(マスバーガー)

Message

メッセージ

“食の継承”は、地域の人と未来をつなぐ文化遺産

料理には、時間と人の想いが込められている。季節ごとに変わる食材、手間を惜しまぬ仕込み、囲炉裏を囲む団らん。それは「生きる知恵」であり、「人を思う文化」。

一口のぬくもりの中に、自然・人・季節の物語が息づき、心を伝える。

食べることは、生きること。そして、つながること。

Resource

関連する資源

- さるがくだいち 猿楽台地の蕎麦畑
- 郷土料理
- 餅つき・農業体験



写真: ツーリズムガイドにしごう山崎茂氏

なすかしれんさん
那須中子連山の火山活動で形成されたこの台地は、水が地下深くへ浸透しやすく、かつては稲作に適さない地だった。先人たちは諦めず、この土地を蕎麦畑へと切り拓き、豊かな食の拠点へと変えた。昼夜の寒暖差が激しい気候が蕎麦の甘みを引き出す。広大な畑は、8月下旬に大地を純白の「白い絨毯」で覆う景観資源であり、風土が育む食の恵みを象徴する。絶好のフォトスポットとしても人気だ。人々の努力が詰まった蕎麦。それを景観からも感じて欲しい。



みづゆ

天ぷら餃子

しもごうまち
山間地に位置する下郷町では、かつて砂糖や魚介類が非常に貴重であったため、鯉の旨煮は特別な日に砂糖を使って甘辛く炊き上げるごちそうとして受け継がれてきた。また、こづゆは遠方から運ばれたホタテの貝柱で出汁を取り、細かく刻んだ根菜類などを加えた具沢山の郷土料理で、きくらげのくろみあえや白ぶしとともに、冠婚葬祭の膳を彩る。これらの料理は、地域の歴史と限られた食材を大切に使う知恵、そして客人をもてなす心を今に伝えている。



クラインガルテン下郷などで提供される、臼植えや臼を使った本格的な餅つき体験は、地域の絆を深めている。ついた餅は、機械製とは違うもっちりとした美味しさがあり、共同作業の喜びを分かち合う、心温まる体験となる。

※※クラインガルテン下郷の利用は年間契約制。餅つき体験は地域イベントなどで行われる場合もあるため事前にお調べいただくことをおすすめします。

しもごうまち
下郷町
クラインガルテン下郷



5.文化の継承と営み

— 古き良きものを今に伝える

Story

ストーリー

大内宿をはじめ、^{しもごうまち}下郷町には古民家や伝統工芸など、古い文化を大切に守り抜く姿勢が深く息づいている。一方で、その伝統を礎に、アートやカフェ、地域づくりといった新しい取り組みが芽吹いている。

この地の文化は、常に「人と人との絆」の中で守られてきた。

古い知恵を新しい生活に活かし、地域に活力を生む。地域の文化は、守り伝えられることで、次世代への希望を形づくる力となっている。



赤べこ絵付け



ろくろ体験

Message

メッセージ

伝統は守るだけでなく、育てるもの

^{しもごうまち}下郷町に息づく文化は、「変わらないために、変わり続ける」という、絶えず試みる精神を体現する。宿場町の風景や古民家を単に「残す」のではない。半夏祭や以仁王伝説に刻まれた過去の絆を力の源とし、大内宿雪まつりや古民家再生、体験活動といった新しい表現を掛け合わせる。この創造的な取り組みこそが、過去と未来をつなぐ再生の力を生み出している。伝統が深く息づき、新しい文化が芽吹くこの町は、訪れる人々に日々の暮らしの中に隠された、驚きと感動を届け続けている。

Resource

関連する資源

● 大内宿半夏まつり



高倉神社の祭礼。毎年7月2日の「^{はんげしょう}半夏生」の日に、家内安全と五穀豊穡を祈願して行われる。この祭りは、白装束に黒烏帽子を身に着けた男衆が神輿を中心に肅々と行列をなし、宿場町を練り歩く、古式ゆかしい伝統行事だ。

● 以仁王伝説



平氏に追われた^{もちひとおう}以仁王が一時潜伏したとされる歴史伝承。史実では以仁王は戦死したとされているが、伝説では越後経由で落ち延びた後、大内宿（旧・山本村）に潜伏し、側室の桜木姫も後を追ってこの地で亡くなったという悲劇的な物語が語り継がれている。大内宿には今も以仁王を祭る高倉神社があり、桜木姫の墓も残されている。

● 大内宿雪まつり



大内宿で毎年2月に行われる冬の祭り。新たな試みとして昭和終わり頃から始まった。江戸時代の宿場町の景観が雪で覆われた幻想的な雰囲気に包まれる。住民手作りの雪灯籠に明かりが灯され、夜には花火大会が開催されるのが最大の見どころだ。その他にも、そば食い競争や「日本一の団子差し」など、さまざまなイベントが実施される。

● 栗のように甘くて濃厚な 在来種大豆「にしごう」を味わう

西郷ゆば工房で守り育てられてきた在来大豆「にしごう」は、粒が大きく、栗のように甘く濃厚な味わいを持つ、この地ならではの貴重な大豆である。およそ70年にわたり栽培が受け継がれ、日本でもここでしか味わえない味として大切に守られてきた。

無農薬で育てられ、雑草の手入れから収穫後の作業まで人の手で丁寧に管理されるため、収穫量は多くない。しかし、その分、一粒一粒に土地の恵みと作り手の想いが凝縮され、力強い甘みと深い味わいが生まれる。

豆腐やゆば、豆乳スイーツとして味わうことで、この土地の風土と人の営みを感じることができる。何気ない一口の中に、地域が守り続けてきた時間の積み重ねがあることに気づくはずだ。

旅の途中でゆっくりと味わいながら、この土地ならではの食の物語に触れ、地域とつながるひとときを過ごしてほしい。



豆乳スイーツ

※まるごと西郷館・白河菓匠大黒屋(新白河店)でご購入ができます



在来大豆「にしごう」



西郷ゆば工房

にしごむら
西郷村 Theme.3『源流の恵み』



西郷ゆば工房

● にしごうフットパスで出会う、季節と風土の道



にしごむら
西郷村
フットパス



フットパスはイギリス発祥の「地域の風景や暮らしを楽しみながら歩く」ウォークスタイルである。西郷村では、官民が連携して「西郷フットパスの会」を立ち上げ、村の自然や文化、地形を生かしたコースづくりが進められてきた。

日光国立公園内に広がる「きびたきの森」や、新甲子遊歩道では、四季折々に咲く山野草や森の表情の変化が楽しめる。足元に咲く小さな花や、森を渡る風の音、鳥の声に耳を傾けながら歩くことで、普段は気づかない自然の豊かさに出会うことができる。

急がず、競わず、道すがらの景色や出会いを楽しみながら歩く時間は、心と体をゆっくりと整えてくれる。地域を知り、人と出会い、自分のペースで歩くことで、この土地との距離が少しずつ近づいていく。

にしごうフットパスでは、自然と暮らしの風景を感じながら、のんびりとした時間を過ごしてほしい。

にしごむら
西郷村 Theme.2『甲子の癒し』

● 清流を遊び尽くす、ここだけのウォーターアクティビティ

あぶくまがわ
阿武隈川の源流域に広がる澄みきった水は、この地域ならではの大きな魅力である。SUPで水面をゆっくり進めば、森と空が水面に映り込み、自然の中へ溶け込んでいくような感覚を味わうことができる。

さらに、渓谷を舞台にしたキャニオニングでは、清流を全身で感じながら岩場を下り、滝つぼへ飛び込み、水と一体になる爽快感を体験できる。水の冷たさや流れの力に触れることで、自然の大きさと楽しさを改めて感じる時間となるはずだ。思いきり体を動かし、笑い合いながら過ごすひとときが、旅の中でも忘れられない思い出として心に残る。



にしごうむら
西郷村 Theme.3『源流の恵み』



にしごうむら
西郷村観光協会



BERGTOAD
西郷ウォーターアドベンチャー



● 広大な領土を誇る白河藩の西の郷
その食や景観を味わう



楽翁ツツジ

だるま最中



白河菓匠大黒屋

白河藩は関東と東北を結ぶ要衝であり、その西の郷にあたったこの地域には、那須の天領や狩場、西白河地方としての多様な文化が点在してきた。東北において、幕府は要所に親藩（会津）や譜代（白河・庄内・棚倉など）を配置した。なかでも白河は「奥羽の門戸」として政治・文化の両面で重要な役割を担っていた。藩主であった松平定信の時代には、殿様文化を象徴する別荘や温泉、楽翁ツツジに代表される景観文化が育まれ、白河藩主からは、松平定信や阿部正外といった幕閣の重鎮を輩出し、幕政の中核とも深く関わった。定信公ゆかりの菓子や酒は、今も地元の老舗菓子店白河菓匠大黒屋によって受け継がれ、「ふるさとを伝える手段」として地域の誇りを形にし続けている。

にしごうむら
西郷村 Theme.2『甲子の癒し』



ふくしまの旅
楽翁溪



にしごうむら
西郷村
観光協会

● 宇宙とつながる夜
満天の星の時間を味わう



写真：写真家佐々木隆氏

山々に囲まれ、人工の光が少ないこの地域では、夜になると「町の宝」ともいえる満天の星空が広がる。太古から変わらぬ自然の中で見上げる夜空は、日常を離れ、宇宙の広がりを感じさせてくれる。

“ここから銀河がやってくる”とも語られる

星空スポット「熊の滑り台」[※]では、春になると桜と天の川が同時に現れ、昼とはまったく異なる景色が広がる。雪割橋や西の郷へ続く遊歩道も、夜には宇宙へとつながる静かな観賞の場となる。静かな夜に空を見上げ、ゆっくりと流れる時間の中で、自分も大きな自然の一部を感じてほしい。星空の下で過ごすひとときが、旅の中でも心に残る特別な時間となる。

にしごうむら
西郷村 Theme.2『甲子の癒し』



にしごうむら
西郷村
観光協会

おすすめしたい体験

● 民宿体験で味わう、あたたかな里の時間

大内宿や湯野上温泉に点在する民宿には、旅人を家族のように迎える宿場町のもてなしの文化が今も息づいている。囲炉裏や食卓を囲み、地元の食材を使った手づくりの料理を味わいながら、宿の人との何気ない会話に心がほだけていく。

移動が容易ではなかった時代、宿で過ごすひとときは旅人にとって大きな癒やしであった。今もその面影を残す古民家の宿に泊まり、夜の静かな宿場町を歩いたり、街明かりの少ない空に広がる満天の星を眺めたりする時間は、都市では味わえない特別な体験となる。

観光地を巡るだけでなく、宿で過ごす時間そのものが旅の思い出となる。人の温かさと里山の静けさに包まれながら、ゆったりとした下郷の夜を楽しんでほしい。

しもごうまち
下郷町 Theme.1『街道と宿場』
しもごうまち
下郷町 Theme.4『食材と郷土料理』
しもごうまち
下郷町 Theme.5『文化の継承と営み』



いで湯と溪谷の里
湯野上温泉

● 100 万年ウォーク –100 万年かけてつくられた道を歩く



アイソツモツケ

しもごうまち
下郷町100万年ウォークは、約100万年という気の遠くなる時間をかけて形づくられた大地の成り立ちを、自分の足でたどるウォーキング体験である。舞台となるのは、水の流れる岩を削り生まれた奇岩の景勝地「塔のへつり」や、冷風が吹き出し高山植物が自生する天然記念物「中山風穴」など、地域を代表する自然景観である。

のどかな白岩地区の田んぼ道や里山の風景を歩きながら、川の音や風の匂い、土地の暮らしに触れることで、この地域が長い年月をかけて育まれてきたことを実感できる。途中のチェックポイントでは地域の人々によるおもてなしもあり、歩くほどに人の温かさにも出会える。

コースは、名所を巡る約10kmのコースに加え、会津鉄道を利用する約5kmのコースも用意されており、家族連れや初心者でも気軽に参加できる。時期によっては希少な高山植物に出会えることも、この季節ならではの楽しみである。

100万年の時間が刻んだ風景の中をゆっくりと歩きながら、自然の大きさと人の営みのぬくもりを感じる。そんな、心と体がほだけていく時間を楽しんでほしい。



しもごうまち
観光公社

しもごうまち
下郷町 Theme.1『街道と宿場』
しもごうまち
下郷町 Theme.2『水の畏敬と恵み』
しもごうまち
下郷町 Theme.3『雪国の知恵』

● 走るほどに、町の魅力が広がるサイクリング体験



しもごうまち
観光公社

山や里、川の流れに囲まれた^{しもごうまち}下郷町では、体力や目的に応じてさまざまなサイクリングが楽しめる。大川(阿賀川)沿いや^{かんのみぬま}観音沼、そば畑を巡る穏やかな^{しもごうまち}里山ルートでは、のどかな風景の中をゆったりと走る時間が心地よい。大内宿や湯野上温泉を目的地にすれば、走った後の温泉や郷土料理も旅の楽しみとなる。

一方、甲子連山方面へ向かうルートでは、雄大な自然を感じながら走る本格的なヒルクライムにも挑戦できる。さらに、町全体を舞台に自転車チェックポイントを巡るサイクルロゲイニングでは、自然景観だけでなく、地元グルメや農業体験などにも出会いながら町の魅力を体感できる。

風を感じながら町を巡り、立ち止まり、地域の人や風景に出会うことで、旅の時間はより豊かなものになる。自分のペースで走りながら、^{しもごうまち}下郷町まるごとの魅力を楽しんでほしい。

^{しもごうまち}下郷町 Theme.1『街道と宿場』

^{しもごうまち}下郷町 Theme.2『水の畏敬と恵み』

^{しもごうまち}下郷町 Theme.4『食材と郷土料理』

^{しもごうまち}下郷町 Theme.5『文化の継承と営み』

● 溪流釣り体験で、自然と向き合い楽しむ



山々に囲まれた^{しもごうまち}下郷町には清らかな溪流が数多く流れ、やがて大川へと合流していく。流れの中では天然のイwanaやヤマメが泳ぎ、大川はアユ釣りの名所としても知られている。

溪流に立ち、水の音を聞きながら糸を垂らす時間は、自然の流れに身をゆだねる穏やかなひとときとなる。魚との出会いを待つ間、森の空気や水の冷たさに触れることで、この土地が育んできた水の恵みを実感できる。

また、町内には気軽に楽しめる釣り堀もあり、初めての人や家族連れでも安心して体験できる。自然の中でゆっくりと流れる時間を楽しみながら、水とともにある^{しもごうまち}下郷の暮らしに触れてほしい。

^{しもごうまち}下郷町 Theme.2『水の畏敬と恵み』

おすすめしたい体験

用語集

鎌房林道

山岳エリア

鎌房林道(西郷下郷鎌房林道)は、福島県西白河郡西郷村^{にしごうむら}と南会津郡下郷町^{みなみあいづ しもごうまち}を結ぶ山岳林道であり、甲子山^{かしま}周辺を通過する路線である。白河側から会津・下郷方面へと至るこの道は、中央分水嶺^{ぶんすいれい}を縫うように走り、太平洋側と日本海側を分ける大地の背骨に沿って延びている。かつては未舗装の険しいダート路として知られ、白河と下郷を結ぶ山越えの林道として利用されてきた。現在は舗装化が進み走行環境は改善しているものの、頂上付近では崩落や封鎖箇所があり、通行には制限がある状況である。自然豊かな山岳地帯を貫くこの林道は、地域をつなぐ歴史を持つと同時に、分水嶺^{ぶんすいれい}上の地形や森の環境を体感できる特徴的なルートとなっている。

由井ヶ原開拓

西郷村

終戦直後の昭和21年(1946年)頃から始まった、外地からの引揚者らによる入植・開拓の地である。阿武隈川^{あぶくまがわ}対岸の川谷地区と同時期に開発が進められ、戦後の食糧増産を担う重要な地域として山林や原野が切り開かれた。厳しい自然環境の中で、入植者たちは力を合わせて農地を拓き、暮らしの基盤を築いていった。その歩みは、戦後復興を支えた開拓の歴史として、今も地域に語り継がれている。

楽翁ツツジ

西郷村

江戸時代後期の白河藩主・松平定信^{まつだいらさだのぶ}(号・楽翁)ゆかりのツツジである。定信は庭園や景観整備に力を注ぎ、城下町的美観や文化の向上を図った人物として知られている。西郷村^{にしごうむら}に残る楽翁ツツジは、そうした景観文化を今に伝える存在であり、春には鮮やかな花を咲かせる。地域では、定信の号「楽翁」になみ名づけられ、歴史と自然を結ぶ象徴として大切にされている。

熊の滑り台

西郷村

西郷村^{にしごうむら}にある岩盤地形の景観スポットで、なだらかに傾斜した大きな岩肌が特徴である。自然が長い時間をかけて磨き上げた岩の形状が、まるで滑り台のように見えることからその名で呼ばれている。

日暮の滝

下郷町

下郷町^{しもごうまち}の山あい^{あいつなかかいどう}にひっそりと佇む滝で、会津中街道^{あいつなかかいどう}・大峠へと続く登山道の起点付近に位置している。豊かな森に囲まれ、落差のある清流が岩肌を伝い落ちる姿は、訪れる人を静かな自然の世界へと導く。その名のとおり、思わず日暮れまで眺めてしまうほど美しいと伝えられ、古くから峠越えを前にした人々の心を潤してきた。山岳信仰や歴史の道と重なるこの滝は、自然の景観と人の往来の記憶を今に伝える場所となっている。

「結」の精神

下郷町

地域の人々が互いに力を出し合い、労力を平等に分ち合いながら暮らしを支えてきた相互扶助の心である。下郷町^{しもごうまち}、とりわけ大内宿では、農作業や茅葺き屋根の葺き替えといった大がかりな仕事を共同で行うことで、この精神が受け継がれてきた。約400年の歴史を持つ大内宿の町並みは、住民同士の協力なくしては守ることができない。茅葺き屋根の補修や維持管理、さらには防災のための放水訓練や防火訓練なども、地域が一体となって取り組んでいる。そこには、自分の家だけでなく町全体を守るという強い共同体意識がある。また、作業を通して技術や知恵が世代から世代へと伝えられ、伝統的な景観や生活文化が今も息づいている。大内宿では「結の会」を中心に住民主体で町並み保存が続けられており、「結」は単なる助け合いではなく、地域の誇りと未来を支える精神的な基盤となっている。

さとゆい
郷結～ふたつの郷を結ぶみちしるべ。～

version1(2026年3月版)

制 作： ^{さとゆい}郷結～ふたつの郷を結ぶみちしるべ。～地域事務局
環境省 ^{にっこうこくりつこうえん}日光国立公園管理事務所・那須管理官事務所（窓口）

協 力： 公益社団法人日本環境教育フォーラム
一般社団法人日本インタープリテーション協会
栃木アウトドア事業振興会BERGTOAD
ワークショップ参加の皆さま

文章・デザイン： 株式会社スターズテック

写 真 提 供： ^{しもごうまち}下郷町 ^{にしごうむら}西郷村 ^{しもごうまち}下郷町観光協会 ^{にしごうむら}西郷村観光協会
株式会社スターズテック
国立那須甲子青少年自然の家
ツーリズムガイドにしごう：山崎 茂 氏
にしごう探検隊 会長：上田 秀人 氏
写真家：佐々木 隆 氏
環境省 ^{にっこうこくりつこうえん}日光国立公園管理事務所・那須管理官事務所 他

さとゆい
郷結～ふたつの郷を結ぶみちしるべ。～地域事務局：

^{しもごうまち}下郷町総合政策課
^{にしごうむら}西郷村産業振興課
^{しもごうまち}下郷町観光協会
^{にしごうむら}西郷村観光協会



さとゆい
郷結

ふたつの郷を結ぶ みちしるべ。

にっこうこくりつこうえん
日光国立公園 甲子地域 インタープリテーション全体計画